

# 子ども家庭総合研究事業

## 厚生労働科学研究費補助金研究事業の概要

研究事業（研究事業中の分野名）：子ども家庭総合研究事業

所管課：雇用均等・児童家庭局母子保健課

予算額（平成16年度）：738,251千円

### ①研究事業の目的

乳幼児の発達支援、乳幼児及び生涯を通じた女性の健康の保持増進等について効果的・効率的な研究の推進を図るとともに、少子化等最近の社会状況を見据えて、児童を取り巻く環境やこれらが児童に及ぼす影響等についての総合的・実証的な研究に取り組むことにより、母子保健をはじめとした次世代育成支援を総合的・計画的に推進するための児童家庭福祉の向上に資することを目的とする。

### ②課題採択・資金配分の全般的状況

15年度採択課題については別紙1に添付する。なお、課題の採択に当たっては、以下の観点から実施している。

<専門的・学術的観点からの留意事項>

- 研究の厚生科学分野における重要性（有用と考えられる研究であるか）
- 研究の厚生科学分野における発展性（厚生科学分野の振興・発展に役立つか）
- 研究の独創性・新規性（独創性・新規性を有しているか）
- 研究目標の実現性（実現可能な研究であるか）
- 研究者の資質、施設的能力（研究業績や研究者の構成、施設の設備等の観点から、遂行可能な研究であるか）

<行政的観点からの留意事項>

- 行政課題との関連性（厚生行政の課題と関連性がある研究であるか）
- 行政的重要性（厚生行政にとって重要な研究であるか）
- 行政的緊急性（現時点で実施する必要性・緊急性を有する研究であるか）

<総合的に勘案すべき事項>

- 研究内容の倫理性

### ③研究成果及びその他の効果

我が国は、世界で最も少子化の進んだ国の一つであり、健康で活力ある社会の実現を目指すためには、心身ともに健やかな「子どもの育ち」を保障するための社会基盤を強化しなければならない。そのためには、子どもの多様な心身状態に応じた適切な発達支援や家庭の子育て支援が不可欠であり、地域において、いつでも安心して保健医療サービスが受けられるようにするための小児救急医療体制や、妊娠、出産から子どもの健全な育ちにかかわる保健医療の充実を図る必要がある。また、児童虐待やドメスティック・バイオレンス（DV）などの子どもの発育・発達や家庭機能に深刻な影響をもたらす社会的課題への対応とともに、家庭・養育機能の形成・回復のための対策の推進が求められる。多様な社会的ニーズや新たな課題に迅速に対応するため、児童福祉、小児医療、母子保健などが連携して子どもの健やかな育ちを継続的に支えるための体制整

備を図ることが急務となっており、本研究事業においては、このような社会基盤の強化に資する以下のような研究成果が得られている。

〈多様な社会的ニーズに対応し、かつ安全で安心できる母子保健医療システムの実現〉

- 妊娠・出産から思春期の健康を支える教育プロセスの構築
- 周産期医療体制に関する実態の把握
- 生殖補助医療の治療指針の開発、生殖補助医療システムの構築に関する検討
- 社会的ニーズに応える小児科・産婦人科医師の確保・育成方策の推進基盤となる実態把握
- 「健やか親子21」における市町村の取組に関する双方向性のデータベースの構築
- 次世代育成行動計画における母子保健施策のあり方に関する検討

〈子ども（胎児を含む）の多様な心身状態に応じた適切な発達支援の実現〉

- 思春期やせ症の予防、早期発見のための「成長発育曲線等を活用した指標」の開発
- 聴覚障害の早期発見、早期ケアのための「新生児聴覚スクリーニングに関するガイドラン」の作成
- 引きこもり（不登校長期化）の予防につながる子どもの睡眠障害を中心とした生体リズムの混乱による疲労感に関する検討
- 神経管閉鎖障害発症リスク低減をねらいとした妊婦の葉酸の栄養状態についての解明
- 新生児の異常呼吸運動の早期発見や理学療法の効果判定のための新しいモニター装置の開発
- 小児心身症に対する基本的知識及び臨床態度を養うための小児科医向け「子どもの心の健康問題ハンドブック」の作成

〈子どもの発育・発達や家庭の機能に深刻な影響をもたらす課題への的確な対応〉

- ドメスティック・バイオレンス（DV）被害者における精神への健康影響の実態の解明及び心身回復のための援助方法の開発
- 児童虐待の発生予防を視野に入れた養育支援を必要とする家庭の早期発見・早期対応のためのアセスメント指標の開発や効果的予防方法の開発
- 子どもの事故と発達の関連を明らかにし、健診での事故防止プログラムを開発するとともに、保護者用の事故防止情報や事故への気配りの自己点検用ウェブサイト開発実行

〈家庭（養育）機能の形成、機能回復のための対策の推進〉

- 子どもの健全な発達と親の育児不安の軽減をねらいとした出生前小児保健指導事業（プレネイタルビジット）促進のための効果評価
- 乳児院・児童養護施設等における保護者の援助のためのガイドラインの作成
- 被虐待児童の保護者への援助・指導を行うための援助プログラムの開発
- 再婚家庭の実態調査を行い、今後予定されている母子自立支援マニュアル作

成のための基礎資料の提供を行い、母子家庭の母親に対する就労支援の意義について社会的理解を高めた

〈新たな社会的ニーズに対応し、かつ子どもの発育・発達を確保できる児童福祉サービスの実現〉

- 低年齢児保育や長時間保育、家庭の養育状況による子ども発達に及ぼす影響についての解明
- 保育所と幼稚園の合同保育に関する指針の作成
- 児童福祉専門職の児童虐待対応に関する専門性向上のための教育訓練教材の開発

#### ④行政施策との関連性・事業の目的に対する達成度

本研究事業については、子どもの健康確保と母子医療体制等の充実、多様な子育て支援サービスの推進、児童虐待への対応などの要保護児童対策などの充実等、母子医療保健及び児童家庭福祉に係る行政施策の推進に資する基盤的研究を実施しており、新たな社会的課題やニーズに対して、具体的かつ施策への実際的応用が可能な研究成果が得られているところであり、総じて研究事業の達成度は高いものと考えられる。

#### ⑤課題と今後の方向性

本研究事業においては、国民的関心及びニーズの非常に高い「周産期・小児医療」や「児童虐待」などの新しい社会的課題への取り組みを行っており、母子保健医療や児童家庭福祉における「健やか親子21」及び「新エンゼルプラン」などの国の重点政策課題に応える研究を推進している。次世代育成支援を総合的に推進するためには、ライフステージの各段階に応じて必要な施策を有機的に組み合わせ、「子どもの育ち」を保障する家庭機能の形成・回復に向けた施策の推進、小児慢性疾患や乳幼児の障害への適切な支援、児童家庭福祉サービスの質の向上に関する研究を重点的に行う必要がある。そのため、平成16年度は、以下の観点から、新たな課題やニーズに対し、実証的かつ成果の明確な母子保健・児童家庭福祉の施策に即応する研究を推進する。

- 〈多様な社会的ニーズに対応し、かつ安全で安心できる母子保健医療システムの実現〉の観点から、小児科・産科医療の今後の体制の整備に関する検討と政策提言を行う。
- 〈子どもの多様な心身状態に応じた適切な発達支援の実現〉の観点から、軽度発達障害児の早期発見と対応システムの開発、胎児期の低栄養状態と児の将来的な生活習慣病発症のリスクの解明とリスク低減のための方策の検討等を進める。
- 〈子どもの発育・発達や家庭の機能に深刻な影響をもたらす課題への対応〉の観点から、虐待を受けた子どもの心身の健康影響を評価する手法や相談・支援システムの開発、ドメスティック・バイオレンス被害者の自立支援のためのガイドラインの作成などを進める。
- 〈家庭・養育機能の形成、機能回復の対策の推進〉の観点から、産後うつの子予防や母子の愛着形成支援のための周産期母子精神保健ケア方策の検討、虐

待の起こった家庭の家族再統合に関する支援プログラムの開発等を進める。

- 〈新たな社会的ニーズに対応し、子どもの発育・発達を確保できる児童福祉サービスの実現〉の観点から、虐待を受けた子どもへの家庭的養護を行うシステム開発や虐待による重症症例に対する総合的治療システムの開発等を進める。

#### ⑥研究事業の総合評価

本研究事業については、子どもの健康確保と安全な母子医療体制等の充実、多様な子育て支援サービスの推進、児童虐待への対応を含む要保護児童対策等の充実等、母子保健及び児童家庭福祉に関する行政施策の推進に資する基盤的研究を実施している。新たな課題や社会のニーズに対し、施策の実施基盤となる基礎資料を提供し、行政施策へ応用される研究成果が得られているところであり、総じて研究事業は高く評価されるものと考えられる。

## 平成15年度厚生労働科学研究費補助金採択課題一覧

NO.	課題番号	開始	終了	主任研究者	フリガナ	所属施設	職名	研究課題名
1	H13-子ども-002	13	15	山縣 然太郎	ヤマガタ センタロウ	山梨医科大学医学部・医学科・保健学講座	教授	地域における新しいヘルスケア・コンサルティングシステムの構築に関する研究
2	H13-子ども-003	13	15	牛島 廣治	ウシマ ヒロシ	東京大学大学院医学系研究科	教授	多民族文化社会における母子の健康に関する研究
3	H13-子ども-005	13	15	田村 正徳	タムラ マサノリ	埼玉医科大学総合医療センター小児科	教授	後障害防止に向けた新生児医療のあり方に関する研究
4	H13-子ども-008	13	15	三科 潤	ミナコ ジュン	東京女子医科大学総合母子医療センター	助教授	全生児を対象とした新生児聴覚スクリーニングの有効な方法及びフォローアップ、家族支援に関する研究
5	H13-子ども-010	13	15	豊田 長康	トヨタ ナガユキ	三重大学医学部産科婦人科学講座	教授	妊娠糖尿病のスクリーニングに関する多施設共同研究
6	H13-子ども-012	13	15	吉池 信男	ヨシイケ ノブオ	独立行政法人 国立健康・栄養研究所(健康・栄養調査研究部)	研究・企画評価主幹	妊産婦、授乳婦の栄養摂取及び栄養状態に関する基礎データの整理
7	H13-子ども-014	13	15	小林 陽之助	コバヤシ ヨノスケ	関西医科大学医学部小児科学講座	教授	小児心身症対策の推進に関する研究
8	H13-子ども-015	13	15	渡辺 久子	ワタナベ ヒサコ	慶應義塾大学医学部小児科学教室	講師	思春期やせ症の実態把握及び対策に関する研究
9	H13-子ども-016	13	15	衛藤 隆	エドウ タカシ	東京大学大学院教育学研究科	教授	思春期の保健対策の強化及び健康教育の推進に関する研究
10	H13-子ども-018	13	15	三池 輝久	ミイケ テルヒサ	熊本大学医学部小児発達学講座	教授	思春期の保健対策の強化及び健康教育の推進に関する研究
11	H13-子ども-023	13	15	中村 肇	ナカムラ ハジメ	神戸大学大学院医学研究科	教授	周産期医療水準の評価と向上のための環境整備に関する研究

NO.	課題番号	開始	終了	主任研究者	フリガナ	所属施設	職名	研究課題名
12	H13-子ども-025	13	15	田中 哲郎	タカハ テツロウ	国立保健医療科学院 生涯保健部	生涯保健部長	子どもの事故防止と市町村への事故対策支援に関する研究
13	H13-子ども-027	13	15	山城 雄一郎	ヤマシロ ユウイチロウ	順天堂大学医学部小児科	教授	子どものためのインフォームドコンセンストを推進するブレバレーションツールの開発
14	H13-子ども-029	13	15	多田 裕	タダ ヒロシ	東邦大学医学部新生児学教室	教授	育児不安軽減のための小児科医の役割とブレネイタルビジットの評価に関する研究
15	H13-子ども-030	13	15	庄司 順一	シウジ シュンイチ	社会福祉法人恩賜財団母子愛育会日本子ども家庭総合研究所	福祉臨床担当部長	被虐待児童の保護者への指導法の開発に関する研究
16	H13-子ども-031	13	15	板橋 家頭夫	イタハシ カスオ	昭和大学横浜市北部病院こどもセンター	こどもセンター教授	育児不安の軽減に向けた低出生体重児の栄養のあり方に関する研究
17	H13-子ども-032	13	15	渡部 信一	ワタベ シンイチ	東北大学大学院教育情報学研究所	教授	インターネット及び人的ネットワークを活用した育児不安軽減に関する研究
18	H13-子ども-033	13	15	中村 敬	ナカムラ ケイ	社会福祉法人恩賜財団母子愛育会日本子ども家庭総合研究所	情報担当部長	地域における子育て支援ネットワークの構築に関する研究
19	H13-子ども-035	13	15	芝野 松次郎	シバノ マツジロウ	関西学院大学社会学部社会学部	教授	児童福祉専門職の児童虐待対応に関する専門性向上のためのマルチメディア教育訓練教材および電子書式の開発的研究
20	H13-子ども-036	13	15	小西 聖子	コニシ ヒロコ	武蔵野女子大学人間関係学部	教授	DV被害者における精神保健の実態と回復のための援助の研究
21	H13-子ども-037	13	15	庄司 洋子	シウジ ヨウコ	立教大学社会学部	教授	ひとり親家族の自立支援施策のあり方に関する実証的研究
22	H13-子ども-038	13	15	野田 正人	ノダ マサヒト	立命館大学産業社会学	教授	非行問題に対応する児童福祉サービスのあり方に関する調査研究
23	H13-子ども-041	13	15	網野 武博	アミノ タケヒロ	上智大学社会学部社会学部	教授	保育が子どもの発達に及ぼす影響に関する研究
24	H14-子ども-002	14	18	坂上 正道	サカガミ マサミチ	早稲田大学人間総合科学大学	学長	乳幼児突然死症候群の診断のためのガイドライン作成およびその予防と発症率軽減に関する研究